

2024年2月11日

主題「神の国はあなたがたのもの」

ルカの福音書 6:20-21

序

それでは今日も共に御言葉に耳と心を開いていきましょう。

本日の箇所は先週に引き続き、「平地の説教」の続きになります。それでは、20節の前半をご覧ください。

1. 貧しい人たちは幸いです

イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話し始められた。

先週、イエスのみもとに、十二使徒、大勢の弟子たち、おびたしい数の人々が集まっていたことを見ました。その集まってきた理由は、イエスの教えを聞くため、病気と悪霊から癒やしていただくためでした。そのような中で、イエスは目を上げて、弟子たちを見つめながら、話し始められました。おそらく、イエスが座り、弟子たちを見上げながら話されていた、そんな状況であったのだと思います。同じことが書かれているマタイの福音書ではより詳細に「腰を下ろされると、みもとに弟子たちがやってきた」とあります。

そして、ルカはここでイエスが教えを語る相手を「弟子たち」としています。この後の箇所を見ても分かりますが、これから続くイエスの教えというのは、「イエスの弟子」、イエスに従う者に対する教えであることが分かります。しかし、7:1にはこのようにあります。

イエスは、耳を傾けている人々にこれらのことばをすべて話し終えると、カペナウムに入られた。

ここにあるように、実際にイエスの教えを聞いたのは「イエスの弟子」だけではなく、「耳を傾けている人々」であったのです。まだイエスの弟子ではない「おびたしい数の人々」もまたイエスの教えを受ける者であった、ということです。そして、イエスは教えを語り始められた。20節後半。

貧しい人たちは幸いです。神の国はあなたがたのものだからです。

イエスが一番はじめに語ったこと。それは、非常にインパクトのあることばでした。「貧しい人たちは幸いです」。一般的に考えるならば、「貧しい」と「幸せ」は真逆の位置にあります。その後も「飢えている人」は「幸い」、「泣いている人」は「幸い」と続きますが、私たちの通常の考え、価値観では考えられないことばばかりです。イエスはここで一体何を言わんとしているのでしょうか。

この「貧しい」というのは、ことば、そのままの意味で言えば、経済的な貧しさを意味することばです。しかし、そうすると、ここでイエスが何を言いたいのか、よくわかりません。果たして、イエスはここでどのような状態を「貧しい」と言っているのか、「飢えている」、「泣いている」と言っているのか。それを解き明かすためには、次の22節を見る必要があります。22節。

人々があなたがたを憎むとき、人の子のゆえに排除し、ののしり、あなたがたの名を悪しざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。

ここで「人の子のゆえに」とある。人々に憎まれ、排除され、ののしられ、あなたがたの名を悪しざまにけなされる。しかしそれが「人の子のゆえに」であるならば、あなたがたは幸いだ、とイエスは語っている。ここと同じように、前の20節、21節も「人の子のゆえに」を前につけて考える必要があります。つまり、「人の子のゆえに」「貧しい人」、「飢えている人」、「泣いている人」は「幸い」である、ということです。そして、マタイの福音書5:3ではこうあります。

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。

「心の貧しい者」というのは、霊において貧しい者ということ。つまり、神と私の関係が罪によって破壊されていることに気づき、「救い」を求めている心の状態のこと。罪ゆえに自らの霊が渇き、貧しいことを知り、神を求めている者のこと。そしてルカでは「人の子のゆえに」。人の子のゆえに貧しい人。それは、イエスのことばを聞き、罪を知り、自らの霊の渇き、貧しさを知った者のこと。イエスと出会い、イエスに従うことを決めた者。またイエスに従ったことによって、実際に貧しくなった者のこと。ルカはその両面を語っているのです。それと同じように、「人の子のゆえに」、「飢えている人」も「泣いている人」も幸いであると言われている。21節。

2. 飢えている人たち、泣いている人たちは幸いです

今飢えている人たちは幸いです。あなたがたは満ち足りるようになるからです。
今泣いている人たちは幸いです。あなたがたは笑うようになるからです。

それでは、「飢えている」とは何に飢えているのか。マタイの福音書 5:6 ではこう言われています。

義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。

ここで言われる「義」とは、神との関係における「正しさ」です。この世の物差し、この世の価値観における「正しさ」ではなく、神が与えられる「正しさ」。それは、この世における悪に対する「正しさ」もそうですし、神との個人的な関係における「正しさ」のこととも言えます。その最たるは神ご自身であります。その神をただただ求めていく。それが義に飢え渴く者の姿です。詩篇 42:1-2 にはこうあります。

鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のだましきはあなたを慕いあえぎます。私のだましきは 神を生ける神を求めて 渴いています。いつになれば 私は行って神の御前に出られるのでしょうか

ここでは、喉が渴いた鹿が流れる川の水を求めているように、私のだましきは生ける神を求めて渴いています、という神への飢え渴きが描かれています。それと同じように「人の子のゆえに」飢えている人。それはイエス・キリストという本当の正しさを知っているからこそ、この世の現実を見て、また自分の現実を見つめ、痛む。イエスのことばを聞き、私の心が照らされる時、自分が神という正しさからはかけ離れ、飢え渴いている存在であることを知っていく。これを、イエスは「幸いだ」と言われるのです。なぜ幸いなのでしょう。それは、イエスによって飢え渴いていることを知るものは、イエスを求めるようになるから。そしてイエスは言われます。「その人たちは満ち足りるでしょう」と。それは一時的な満足や充足感ではありません。イエスはいつまでも決して渴くことのない、永遠のいのちへの水で私たちを満ちたらせてくださるのです。

そして最後の「泣いている人」。この泣いている人の幸いはマタイの福音書には記されていません。しかし、これも同じです。「人の子のゆえに」泣いている人。

つまり、イエスの弟子となったがゆえに、22 節にあるような迫害を受け、また貧しさや飢えによって、泣いている人のこと。しかし、人の子のゆえに泣いている人たちは幸いなのです。なぜなら、その人たちは、笑うから。イエスに従う者は涙で終わることはないのです。ヨハネの黙示録 21 章 4 節 にはこうあります。

神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。

結論 神の国はあなたがたのもの

「人の子のゆえに」 貧しい人たち、飢えている人たち、泣いている人たち。彼らは幸いである。これが今日、ともに見てきたイエスの教えです。どれもこの世の物差し、この世の価値観とは真逆であることを私たちは実感するはずです。しかし、イエスが与えてくださるこの価値観。いや、価値観と呼ぶべきではないのかもしれませんが。これこそが真理だからです。ここに希望があります。私たちが生きる世界は、貧しさや飢えではなく富むことが良いとされている。涙を流すよりも、自分のために笑うことが良しとされる世の中。これらは、自分の欲を満たすことが最優先、悪はさばかれず、神を神としない生き方。しかし、イエスが私たちに与えてくれる真理は、本当の幸せを私たちにもたらします。

たとえ経済的に貧しく、飢えてしまうようなときも、悲しみの中で涙を流したとしても、「人の子のゆえに」、イエスのゆえに、そうであるならば、神の国は私たちのものなのです。このイエスの語る希望に生かされたい。これがどれだけの幸いであるか。実感をもってキリスト者として生きていきたいのです。

神の国はあなたがたのものだからです。イエスはこのように語られます。神の国。これは神がお造りになられたすべてのもの、出来事を神が支配されるということ。そして、その神の国を、イエス・キリストを信じる者は、神の子どもとして相続する約束が与えられている。イエスが再びこの地上に来られ、神の国が完成した時、神の国を受け継ぐ特権が与えられている。だから、幸いなのです。そしてこれは、終末における神の国の完成の未来のことだけを指していません。「神の国はあなたがたのものだからです」。これって現在形で書かれているんですね。どういうことかということ、「神の国はいつかあなたがたのものになるでしょう」ではなくて、「もうすでに」神の国はあなたがたのものだ、ということです。すでに神の国が私たちに与えられている。どれだけすごい特権に預かっているのだろうと思わされます。

それでもなお、私たちは貧しさよりも富むことを、この世的な楽しさで自らを喜ばせたいと思ってしまう、そのような弱さを携えて生きています。そんな自分の心をイエスという光で照らしていただきたいのです。イエスの光は私たちを責めるために照らしているのではなく、共に歩むために招いてくださる「私の道の光」です。

私たちが本当に大切にすべきものは何でしょうか。何によって、満ち足りて、笑うのでしょうか。すでに与えられた幸いがある。この幸いをもう一度両手を広げて受け取りたい。イエスのことばに生かされて、今週も共に遣わされた場所で歩いていきましょう。